

表 レミディーズ「RS標準タイプ」の種子配合と導入可能地域の目安

目標	温量指数	地域特性	立地	勾配	地山の状態	標準タイプ	樹種名	
自然環境重視型	(45以下はフィットタイプ) 45~65 (北海道55)	落葉広葉樹生育地域	落葉樹が主体	1:0.6より緩	—	寒冷落葉型	主構成種：オオヤマザクラ／エゴノキ／キハダ・カエデ類・シラカンバ・ヌルデ 補全種：コマツナギ	
	65~85	落葉広葉樹生育地域		1:0.6~0.8	—	落葉型Ⅰ	主構成種：エゴノキ／キハダ・ヌルデ・ノイバラ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ	
				1:0.8より緩	亀裂間隔が20~50cm	落葉型Ⅱ	主構成種：ヤマザクラ／エゴノキ／キハダ・カエデ類・ヌルデ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ	
					亀裂間隔が20cm未満		落葉型Ⅲ	主構成種：エノキ・ケヤキ・カエデ類・ヌルデ・エゴノキ／キハダ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ
	土壌硬度が25mm以上	土壌硬度が25mm未満	主構成種：エノキ・ケヤキ・カエデ類・ヌルデ・エゴノキ／キハダ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ					
	85~180 (180以上はフィットタイプ)	常緑広葉樹生育地域(注1)	常緑樹が主体で内陸部	1:0.6~0.8	—	常緑内陸型Ⅰ	主構成種：ネズミモチ・ノイバラ・ヌルデ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ	
				1:0.8より緩	亀裂間隔が20~50cm	常緑内陸型Ⅱ	主構成種：ヤブツバキ／ヤマモモ・ネズミモチ・ヌルデ・ヤマザクラ／ムクノキ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ	
					亀裂間隔が20cm未満		常緑内陸型Ⅲ	主構成種：カシ類／ムクノキ・ヤブツバキ／ヤマモモ・ヤマザクラ／エゴノキ・ネズミモチ・ヌルデ／クサギ 補全種：コマツナギ
					土壌硬度が25mm以上			主構成種：シャリンバイ・ネズミモチ・ヌルデ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ
		常緑広葉樹生育地域	常緑樹が主体で沿岸部	1:0.6~0.8	—	常緑沿岸型Ⅰ	主構成種：シャリンバイ・ネズミモチ・ヌルデ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ	
1:0.8より緩				亀裂間隔が20~50cm	常緑沿岸型Ⅱ	主構成種：シャリンバイ・ネズミモチ・センダン・ヌルデ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ		
	亀裂間隔が20cm未満	土砂系	主構成種：シャリンバイ・ネズミモチ・センダン・ヌルデ・アキグミ／クサギ 補全種：コマツナギ					
修景・造景重視型	65~85未満	—	寒冷地	—	—	花木型Ⅰ	主構成種：ムクゲ・サルスベリ・エゴノキ・ヤマザクラ／イボタノキ 補全種：コマツナギ	
	85~180	—	温暖地	—	—	花木型Ⅱ	主構成種：フヨウ・サルスベリ・ヤブツバキ・フジウツギ／ウラジロフジウツギ 補全種：コマツナギ	

【寒さの指数】 1年を通じて月平均気温5℃以下の各月の値から5℃を差引いて残った値を加算したものである。暖地性植物の分布の限界を示す場合に用いられる。

【補足説明】 周辺植生が落葉広葉樹主体の場合や寒さの指数が-10℃以下の場合は、落葉型Ⅰ～Ⅲから選定する。施工地の周辺植生等に応じて使用植物を個別選定する場合は「フィットタイプ」を選定する。草本種は、環境保全水準や現場の要望に応じて別途配合する(草本種を使用しない場合もある)。樹種名欄の「／」は、「または」を示す。